

平成23年度

秋田県21世紀土地改良区創造運動事例集

水土里ネットの ふれあい



秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部
(水土里ネット秋田)

目次

活動事例

1	鹿角地区(水土里ネット鹿角支部)	…	1
2	大館南地区(水土里ネット二井田真中)	…	2
3	立花地区(水土里ネット大館)	…	3
4	糠子地区(水土里ネット糠子)	…	4
5	能代地区(水土里ネット能代地区)	…	5
6	琴丘地区(水土里ネット琴丘)	…	6
7	仁井田地区(水土里ネット仁井田壇)	…	7
8	一ノ目瀧地区(水土里ネット一ノ目瀧)	…	8
9	八西地区(水土里ネット八郎海西部干拓)	…	9
10	井川地区(水土里ネット井川)	…	10
11	大海地区(水土里ネット大海)	…	11
12	本荘薬師堂地区(水土里ネット子古)	…	12
13	飛地区(水土里ネットにかほ)	…	13
14	西目地区(水土里ネット西目)	…	14
15	仙北平野地区(水土里ネット仙北平野)	…	15
16	西木地区(水土里ネット西木)	…	16
17	七滝地区(水土里ネット七滝)	…	17
18	南旭川地区(水土里ネット南旭川)	…	18
19	平鹿地区(水土里ネット雄物川郷)	…	19
20	山田地区(水土里ネット山田五ヶ村)	…	20
21	横畑地区(水土里ネット湯沢中央)	…	21
22	稲川地区(水土里ネット稲川)	…	22
23	羽後地区(水土里ネットうご)	…	23

参考資料

1. 平成23年度21創造運動表彰 受賞一覧
2. 愛称「水土里ネット」の普及状況

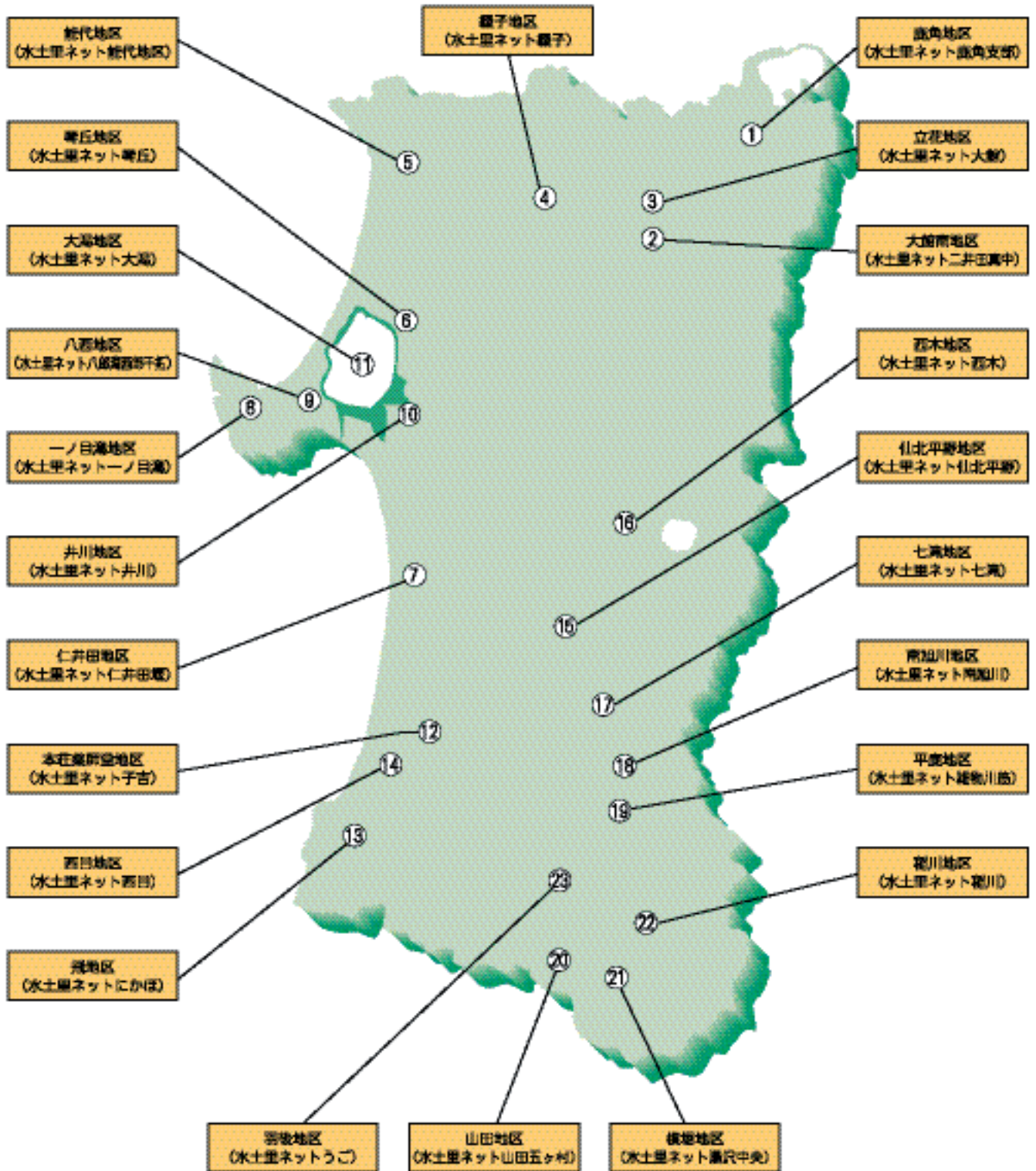
活動実施経過

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	年数
1		■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
2			■	■	■	■	■	■	■	■	⑦
3			■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
4				■	■	■	■	■	■	■	⑤
5				■	■	■	■	■	■	■	⑦
6				■	■	■	■	■	■	■	⑦
7		■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
8	■	■		■	■	■	■	■	■	■	⑧
9									■	■	②
10				■	■	■	■	■	■	■	⑦
11							■	■	■	■	④
12		■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
13		■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
14									■	■	②
15		■			■	■	■	■	■	■	⑦
16						■	■	■	■	■	⑤
17							■	■	■	■	④
18						■	■	■	■	■	⑤
19	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
20	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
21	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
22	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
23	■		■	■	■	■	■	■	■	■	⑨

(活動経過実績)

- …1年目
- …2年目
- …3年目
- …4年目以降

平成23年度活動地区位置図



① 鹿角地区 【水土里ネット鹿角支部】

農業体験活動、農業水利施設見学

(1) 八幡平小学校の体験学習「田植え・稲刈り」

① 田植え体験学習

学習田へ出発する前に、学校内で自作のパンフレット、地域農業施設マップを使って施設の位置・重要性、水の大切さを知ってもらうための説明をしました。その後、学習田で田植え作業の説明とコツなどを聞いた後、田植棒で付けた目印に手植えで挑戦しました。あちこちで子供達の歓声が上がり楽しい体験をしました。

② 稲刈り体験学習

八幡平小学校の体験学習で田植えをした、学習田のお米が立派に稔り10月12日に稲刈りが行われました。慣れない手つきで稲刈り鎌を持ち、大変な作業に耐えながらも、最後は「はさ掛」まで行い楽しい秋の1日になりました。

③ 大収穫祭

11月に大収穫祭があり、田植え、稲刈りを手伝った保護者や地域の人達に招待状が届きました。収穫したお米を各班ごとに、おにぎり・味噌付けタンポ・お煎餅など工夫を凝らし作っていました。最後に子供達全員から感謝の言葉と歌をプレゼントしてもらい、新米をおいしく味わってきました。

(2) 頭首工施設見学

頭首工施設見学は、市内の小学4年生を対象に花輪大堰頭首工の機能や役割、水がどの様に利用されているかを自作パンフレットを使って説明しました。担当者の説明に興味津々で、みんな一生懸命メモをとっていました。今後も学校の総合学習の時間や学校行事などを活用させてもらい、農業や農村に触れる機会を提供するため、地区活動組織、関係機関と連携しながら施設の見学会、出前授業等を継続していきたいです。



活動体制	
実施主体	水土里ネット鹿角支部
後援・連携	鹿角市内小学校、かつの土地改良区、鹿角地域振興局
実施期間	5月～11月
参加者	農業体験（田植え・稲刈り）35名、頭首工施設見学（2校）100名
報道関連	秋田県のHP（美の国秋田）
活動実施年数	9年
連絡先	〒018-5201 鹿角市花輪字荒田4-1 かつの土地改良区 TEL. 0186-23-3762
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット鹿角支部（根本由紀子）

○活動の目標及び達成率	目標	小学校の総合学習等に積極的に参加し、農業体験等で農業農村の重要性や水土里ネットの役割をPRする。			
	達成率	70%			
○活動に対する評価		<ul style="list-style-type: none"> 前年度に比べ計画的に活動することができず、施設見学の対象小学校が2校となるなど、参加者数が大幅に少なくなってしまう残念だった。 すべての活動で、関係機関と連携し協力を得ながらできた。今後も更なる体制強化を図り活動を推進していきたい。 			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	改良区広報に、当事業内容を掲載しPRしている（年2回）
①役職員・組合員の参加	B	役職員一体で取り組んでいる	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	地域毎にパンフレットや施設マップを作成し小学生へ説明している	①他組織との連携構築	B	関係機関である鹿角地域振興局と連携し協力を得ながら活動している
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	C	小学生を対象とした活動をしています。最近「学校のパソコンの授業で水土里ネット（土地改良区）」をもっと詳しく調べたい」と嬉しい声が多く聞かれました。子供達にも農業に対しての関心が今以上に高められるよう活動を継続していきたい
①基本理念の設定	B	地域環境が合う内容で活動している	③施設管理・地域資源の保全強化	C	
②地域の歴史等の伝承	B	施設等が造られた経緯や必要性をパンフレットにまとめPRをしている	④運動の地域づくりへの関わり	C	
③運動の先駆性	C	型にはまった活動となってきた。今後検討が必要	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	C	
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	
①運動の継続性	A	今年8年目。学校側の協力を得ながら継続していきたい	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	当初、支部主催であった「大根掘」が、現在は支部活動がきっかけとなり保育園独自の農業体験・食育の場となり、活動が発展した			
③運動の計画性	B	鹿角管内全ての小学校を対象として活動出来るよう更なる取り組みが必要			

(自己判定) A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

② 大館南地区 【水土里ネット二井田真中】

地元中学校の農園活動を支援 “キーワードは「地域・環境・守る」”

活動も7年目を迎え、南中生たちにとっても恒例行事の一つとして定着してきております。

マルチがけ作業については1年生から3年生の生活委員12名に頑張っていただき、1時間ほどで畑の基礎づくりを完成しました。

今年度は「さつまいも」、「枝まめ」、「やまのいも」の3種類を植えました。水の管理や雑草処理、収穫作業を体験しながら、管理の重要性や環境保全につながることへの理解を深めてもらうなど、水土里ネットが目指す「地域・環境・守る」について理解が定着してきたものと感じております。

今後も活動を続けながら、水土里ネットの役割や環境保全への一層の理解、認識を深めてもらえるよう運動を展開していきたいと思っています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット二井田真中（大館市二井田真中土地改良区）
後援・連携	大館市立南中学校
実施期間	①6月10日、6月16日
参加者	大館市立南中学校 生徒80名
報道関連	特になし
活動実施年数	7年
連絡先	〒018-5751 大館市二井田字高村56 大館市二井田真中土地改良区 TEL. 0186-49-5010
その他	県奨励賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット二井田真中（菅原恵里子）					
○活動の目標及び達成率	目標	農園活動を通じ地域の環境と水土里ネットの役割を理解してもらう。			
	達成率	75%			
○活動に対する評価	・「地域・環境」という共通の目的をもって、中学校との連携体制が定着した。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	C	
①役職員・組合員の参加	A	活動に対する理解の定着	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	地域の環境と役割について理解を深めてもらうため活動を継続的に行っている	①他組織との連携構築	C	学校との連携
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	生徒を通して理解を深めている
①基本理念の設定	A	作る事により地域や環境が守られていることへの理解	③施設管理・地域資源の保全強化	C	生徒の理解を深め将来の保全につなげたい
②地域の歴史等の伝承	B	作る事で地域の農業が継承されていることへの理解	④運動の地域づくりへの関わり	A	継続していくことで関わりを深めている
③運動の先駆性	B		⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	活動組織の役目として参加している。活動に必要な資料や地図を作成して提供
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	活動を通して地域農業について理解と関心を深めてもらい将来の担い手につながればよいと思う
①運動の継続性	A	今後も継続していきたいと考えている	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	学校全体の活動としパンフレットでもPR			
③運動の計画性	A	年度当初に学校側との計画の立案			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

③ 立花地区 【水土里ネット大館】

小学生のネギ植え・収穫体験

今年で8年目を迎えた農業体験学習を、農事組合法人立花ファーム、立花地区農用地保全活動協議会の協力のもと、大館市立川口小学校3年生18名が参加して、立花ファームで作付けしているネギの苗植作業と収穫作業を体験した。

6月は苗植体験が行われ、小さなネギ苗を手植えと機械による植付作業で体験した。

収穫体験は10月27日に実施され、ネギの苗植えをしてから約5カ月。5cmほどだった苗も順調に育ち、80cmから90cm位の立派なネギに成長していた。子供達からは「大きい」との驚きの声もあがり楽しい様子で、収穫した太いネギを一人10本ずつ袋に詰めてプレゼントされていた。家に持ち帰ってどんなネギ料理を作ってもらえるのか楽しみな様子であった。

質問コーナーでは「ネギの栄養について」、「ネギ作りで大変なこと」、「ネギの種類、名前は？」など子供達の質問に農家が回答していた。この中から一人でも将来の後継ぎが出てくれればと話していた。



活動体制	
実施主体	農事組合法人立花ファーム
後援・連携	大館市土地改良区、立花地区農用地保全活動協議会、大館市立川口小学校
実施期間	①平成23年6月10日（金） ②10月27日（木）
参加者	川口小学校3年生18名、教員3名
報道関連	北鹿新聞社
活動実施年数	8年
連絡先	〒017-0056 大館市字沼館道南40番12 大館市土地改良区 TEL. 0186-42-0558
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット大館（佐藤 朝子）

○活動の目標及び達成率	目標	地域で活躍している方々から様々な事を学ぶ農業体験学習			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・8年目を迎えて学校との連携が深まって来ているので、今後も継続していきたい。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	C	PRの方法を検討していきたい。
①役職員・組合員の参加	C	地域の法人組織の協力参加	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	後継者を育てる工夫までではない	①他組織との連携構築	B	川口小学校との連携
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	C	回数を重ねるごとに理解は得られると思う
①基本理念の設定	B	地域と共に歩む方向性を提示	③施設管理・地域資源の保全強化	B	農地・水・環境保全に取り組んでいるので、保全の強化につながっている
②地域の歴史等の伝承	C	地域の歴史をもっと子供達に伝える運動をする。	④運動の地域づくりへの関わり	C	水土里ネットの関わりをもっと深めたい
③運動の先駆性	B	他の手本となるような運動ではない	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	大いに貢献している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	地域農業の振興までには至っていない
①運動の継続性	B	学校側の協力を得ながら継続していきたい	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	小学3年生を対象にしているため関心を持つようになった	・地域法人の協力があるので、無理のない運動を継続できればと思う。		
③運動の計画性	B	小学校と連絡をとりながら打ち合わせを行っている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

④ 綴子地区 【水土里ネット綴子】

農業体験学習～地域住民との交流～

「農地・水・環境保全向上対策」の活動組織である「綴子大太鼓の里保全隊」と連携し、綴子小学校5年生を対象にした田植えから収穫までの農作業体験を実施した。

6月1日、綴子農村公園隣に10aの農業体験田を設け、田植え体験を行った。作業の指導には地域の老人クラブや婦人会の方々があたり、植え付け方などを昔の農作業姿で指導した。裸足で田んぼに入るといった初めての体験に子供達は歓声を上げながら楽しんで田植えを行っていた。今年度は、5年生が主となって田植えから収穫までの生育観察を行い学習に役立てた。

10月10日、稲刈り体験を実施。稲刈り鎌による手刈り作業、はさ掛け作業の体験を行うとともに、鎌による収穫から現在のコンバインまでの農機具の移り変わりについての説明も行った。

11月12日には地域住民交流会を開催し、収穫米の試食会（きりたんぼ）や小学生による農作業体験を題材にした劇の発表を行い地域住民との交流を深めた。

子供達に水の大切さ、お米の大切さを知ってもらい、地域住民との交流を深められたことは大変有意義であり、今後も継続していきたいと考えている。



活動体制	
実施主体	綴子大太鼓の里保全隊
後援・連携	北秋田市立綴子小学校、水土里ネット綴子
実施期間	平成23年4月10日～11月22日
参加者	綴子大太鼓の里保全隊 北秋田市立綴子小学校（5年生203名、教職員） 水土里ネット綴子 のべ1,733名
報道関連	大館新報社、秋北新聞、北鹿新聞
活動実施年数	5年
連絡先	〒018-3301 秋田県北秋田市綴子字掛泥道下210番地 北秋田市綴子土地改良区 TEL.0186-62-1677
その他	さなえ賞（H20）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット綴子（佐藤 則子）					
○活動の目標及び達成率	目標	子供達の農業に対する関心を高める。地域住民の交流。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・保全隊、小学校、水土里ネットの連携した活動を通して世代間、集落間の交流が深まり、また、非農家へも水土里ネットの役割をPRでき、充実した活動内容になったと思う。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	のぼり旗を設置しPRに努めた
①役職員・組合員の参加	B	活動を通して役職員、組合員の意識が徐々に高まっている	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	学校や関係団体との連携体制が整っている	①他組織との連携構築	A	学校や自治会、老人クラブ、婦人会等と連携し活動している
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	C	積極的に検討
①基本理念の設定	B	学校や関係団体と連携し検討されている	③施設管理・地域資源の保全強化	C	積極的に検討
②地域の歴史等の伝承	A	子供達に伝統農法の体験させ伝承する活動を実施	④運動の地域づくりへの関わり	B	非農家へもPRし、地域との関わりを深められた
③運動の先駆性	C	積極的に検討	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	活動組織と連携して実施
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	積極的に検討
①運動の継続性	B	農地・水・環境保全向上対策活動組織と連携し継続した活動を計画	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	積極的に検討			
③運動の計画性	A	学校や関係団体と連携し計画			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑤ 能代地区 【水土里ネット能代地区】

水土里の実践活動～地域で土地改良施設を守ろう～

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として、「水土里の実践活動」を平成23年7月7日、平成23年8月4日に開催した。

平成23年7月7日の活動は、秋田県立大学の学生と教諭が参加し、大野分水工、荷八田幹線排水路にて施設周辺の草刈りとゴミ拾い等を実施した。

平成23年8月4日の実践活動は、淳城幼稚園の園児と職員が参加し、大野分水工にて花壇の植栽等を実施した。各日とも作業終了後に意見交換会を行い、地域資源である農業水利施設の持つ多面的機能の重要性を改めて認識しながら、農業者だけではなく、地域全体で土地改良施設を守っていかなければならないことを確認した。

今後も農業者だけではなく、地域住民や地元自治会等の非農家との活動を継続していけるよう定着を図りたい。



活動体制	
実施主体	能代地区管理体制整備推進協議会（事務局：秋田県能代地区土地改良区）
後援・連携	秋田県能代地区土地改良区
実施期間	平成23年7月7日、平成23年8月4日
参加者	7月7日 秋田県立大学 学生12名、教員1名 能代地区管理体制整備推進協議会 2名 秋田県能代地区土地改良区 役員1名、職員10名 計 26名
	8月4日 淳城幼稚園 園児45名、職員4名 能代地区管理体制整備推進協議会 3名 秋田県能代地区土地改良区 役員3名、職員10名 計 65名
報道関連	特になし
活動実施年数	7年
連絡先	〒016-0014 能代市落合字中大野台100番地23 秋田県能代地区土地改良区 TEL. 0185-54-3024
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット能代地区（三浦 誠樹）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設の多面的機能発揮のため、地域住民との施設管理協定締結等の新たな管理体制の枠組みを構築する。			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	・協定締結や推進活動を継続してきたことにより、事業の趣旨や重要性が理解され、これまでの活動が定着段階にある。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	パンフレット及び看板を作成しPRしている
①役職員・組合員の参加	A	役職員が活動に参加し、地域住民と共同で作業を実施している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	活動を毎年継続していくことで、後継者の育成を図っている	①他組織との連携構築	B	地元自治会及び地域住民団体等と活動を実施している
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	活動やPRを継続してきたことにより理解が深まってきている
①基本理念の設定	A	推進協議会で計画策定をおこなった活動を実施している	③施設管理・地域資源の保全強化	B	各施設で活動を実施することで保全管理の強化につながっている
②地域の歴史等の伝承	C	意見交換会等で造成工事の際の話題も取り上げている	④運動の地域づくりへの関わり	C	地元自治会と共同で活動を実施することで、地域づくりへ貢献している
③運動の先駆性	B	地域住民以外にも秋田県立大学の学生等が活動に参加している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	農地・水・環境保全向上対策とは、施設を区分している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	活動で施設の保全強化を図っているため、少しは貢献している
①運動の継続性	B	活動を定着させるため、毎年度実施している	5. 今後の課題等について ・地域住民や地元自治会等との活動を継続し、実践活動の定着を図る。		
②運動の発展・拡大	C	市町の庁舎にもパンフレットを設置して活動の拡大を図っている			
③運動の計画性	A	推進協議会で計画策定をおこなった活動を実施している			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑥ 琴丘地区 【水土里ネット琴丘】

田んぼの水の話～農業施設見学会～

地元の琴丘小学校の児童を対象とした農業施設見学会は今年で連続6回目となりました。

今回、5年生34名と引率教師2名が当土地改良区管理の基幹農業施設を見学しました。5年生では、ちょうど6月の時期に農業用水について学習するとあって学校側でも実際の現場を体験することは有意義であるとのことでした。

最初に基幹水源である羽根川ダム湖水館において写真パネルやパンフレットを使い、農業用水の流れと各水利施設の役割を説明し、土地改良区がどのように係っているかを説明しました。

その後、質疑応答では児童から活発な質問があって、それに答える形で進めました。

施設見学では水の流れに沿って上流のダム、ため池、揚水機場、下流の排水機場の順に廻り、各施設の運転操作等を実際に体験してもらいました。参加した児童のほとんどは実際の水利施設を間近に見るのは初めてのようで、興味をもって見学をしていました。

今後もこの活動を継続し、農業水利施設及び土地改良区の役割を児童及び地域住民に理解してもらるように努めたい。



活動体制	
実施主体	水土里ネット琴丘（琴丘土地改良区）
後援・連携	三種町琴丘小学校、三種町教育委員会
実施期間	平成23年6月20日
参加者	小学校5年生34名、教師2名、土地改良区理事長・職員2名
報道関連	特になし
活動実施年数	7年
連絡先	〒018-2104 山本郡三種町鹿渡字東二本柳29-3 琴丘土地改良区 TEL. 0185-87-2277
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット琴丘（牧野 一）					
○活動の目標及び達成率	目標	土地改良区及び農業水利施設に対する社会認識の向上			
	達成率	85%			
○活動に対する評価					
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	写真パネルや関連図書、パンフレット等を活用した
①役職員・組合員の参加	B	役職員が運動推進に協力している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	土地改良区の役職員が今後も活動を継続していく	①他組織との連携構築	B	町教育委員会、小学校との連携が構築されている
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	A	活動を継続することで地域住民の理解は深まっている
①基本理念の設定	A	土地改良区と農業水利施設の役割を強調している	③施設管理・地域資源の保全強化	B	児童の段階である程度周知し、将来につなげたい
②地域の歴史等の伝承	A	先人の歴史や苦勞をできるだけ伝えるようにしている	④運動の地域づくりへの関わり	B	徐々に理解を頂いている
③運動の先駆性	B	特段手本とはならないと思うことができる範囲で活動する	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	—	
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	農業水利施設を理解することは農業振興につながる
①運動の継続性	A	6年間継続中である	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	児童に伝えることにより地域に広げたい			
③運動の計画性	A	事前の打ち合わせや準備を綿密に行っている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

水土里のみちウォーキング in 仁井田 walk

ウォーキングを通じて仁井田、四ツ小屋地区の美しい田園風景や心と水辺空間など有形、無形の資源や農業用水路の役割の大切さや農業水利施設の維持管理の大変さを再発見するとともに、さらに、それらに対する認識を深めてもらった。

昨年の悪天候とは変わって、晴天のもと14kmコースと6kmコースの2コースで、ウォーキングをしながらの用水路や田園風景、各土地改良施設を見学してもらうことを目的として開催しました。

14km、6kmと同時にスタートし、例年どおりのコースを参加者からは思い思いに楽しんでいただいた。昨年の雷雨による中止から学んだ事を活かした準備や大会運営となり、運営に協力していただいたスタッフのみなさん、すべての皆様に感謝しています。

土地改良区役職員、県ウォーキング協会、県（農地整備課、秋田地域振興局）、市（農地森林整備課、教育委員会）、水土里ネット秋田が一体となって計画、会場準備、大会運営を行った。昨年に引き続きメディアを使ったPR活動として後援をいただいた地元エフエム局へ出演し広告活動を行った。また、新たな後援団体として市内の体育館や福祉施設を運営する秋田市勤労者福祉振興会からも協力していただいたほか、今年も農業共済組合からの記念品の提供とスタート・ゴール地点となった秋田県中央地区老人福祉総合エリアからもテーブルや椅子などの備品やトイレ施設等の使用も協力していただいた。大会終了後は次回への反省点などを協議するスタッフ反省会を開催して、第10回大会運営について話し合われました。



活動体制	
実施主体	水土里ネット仁井田堰（仁井田堰土地改良区）
後援・連携	県ウォーキング協会、秋田県、秋田市、市教育委員会 J A新あきた、秋田中央農業共済組合、水土里ネット秋田支部、水土里ネット秋田、エフエム樺台 秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会、秋田県サイクリング協会、秋田市勤労者福祉振興会
実施期間	平成23年6月19日
参加者	一般参加者236人、スタッフ74人 計310人
報道関連	水土里ネット秋田会報誌、共済組合新聞ほか
活動実施年数	9年
連絡先	〒010-1421 秋田市仁井田本町4丁目5-20 仁井田堰土地改良区 TEL018-839-2504
その他	県奨励賞（H16）、東北地方大賞奨励賞（H16・H20）、県知事賞（H19）、 秋田県秋田地域振興局元気なふるさとづくり賞（H19）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット仁井田堰（伊藤 清栄）

○活動の目標及び達成率	目標 子どもからお年寄りまでの大会参加 達成率 80%				
○活動に対する評価	・今年は地域の行事と重なったせいか、子どもの参加率が例年より下がってしまい、残念でした。次回は地域の子どもたちにもっと参加してもらえよう考えたいです。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	A	関係機関やNPO等のホームページを積極的に活用したほか地元新聞広告やエフエム局でも宣伝活動を行った
①役職員・組合員の参加	A	役職員全員がスタッフとして参加している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	周辺土地改良区若手職員からもスタッフとして参加してもらっている	①他組織との連携構築	A	異業種である後援団体等からも継続的に支援をいただいている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	昨年の中止で今年の開催を心配する声を、多くの地域の方からいただいた
①基本理念の設定	A	第1回目から変わらぬテーマで取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	地区内の農地・水関係組織がコースの草刈りやテント設営などに協力を得ることで、地域資源の保全や地域住民のコミュニケーションの場の提供等も貢献している
②地域の歴史等の伝承	A	コース内に神社などを設定している	④運動の地域づくりへの関わり	B	
③運動の先駆性	B	特に安全面に重視した運営とポップコーンの無償提供、野菜の直売などでリーダーが増えるよう心がけている	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	E	地元農家による野菜の直売を通じて、安心安全な農業への理解を得ている
①運動の継続性	A	毎回、アンケートをとり次回運営に反映させている	5. 今後の課題等について		・年々、受益面積が減少し経費節減が言われるなかで、関係機関の協力のもと大会を続けてきましたが、今後は母体となる改良区職員の削減なども加わり、継続的な大会運営は困難を極めるものと思われることから、別の形式で運動を検討していく必要がある。
②運動の発展・拡大	A	今回も新たな後援団体が増えるなど目頃から拡大に努めている			
③運動の計画性	A	実行委員会を組織して、定期的な打ち合わせと大会終了後の反省会を毎回行っている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

クリーンナップ作戦～ブラックバス駆除～

当土地改良区では、21創造運動として、平成14年より第1回目のブラックバス駆除を開始し、9年間で7回の駆除を行っている。また、現在一ノ目潟は農業用の他に飲料水としても利用されていることから、水質保全のため一ノ目潟周辺のクリーンナップも同時に実施している。今年度は、ブラックバス駆除は行わずクリーンナップのみを実施した。

クリーンナップでの回収ゴミは、遊漁者が残していったものと見られる釣り針や釣り糸、空き缶、ビニール袋、タバコの吸殻等であった。今年度のゴミの量は10ℓ入れゴミ袋が3つ分だった。例年より貯水量が多かったせいもあり湖岸にゴミは少なかったが遊漁者も年々減少しているのではないかと考えられた。

昨年度の駆除量の減少からブラックバスは年々減少していると思われる。堤防から覗く水面にシマヨシノボリの稚魚が多数見られた。こうした在来魚はブラックバスが餌として捕食するため一時はほとんど見られなくなっていたが、今年は多数確認できたことから長年の活動の成果があったものと思われる。しかし、外来魚すべてを除去することは、ため池の構造上不可能であるため、駆除は継続して行う必要があると認識している。



活動体制	
実施主体	水土里ネット一ノ目潟（男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区）
後援・連携	県水産振興センター・男鹿市・男鹿市土地改良区連絡協議会
実施期間	平成23年9月2日
参加者	地元住民、男鹿市、男鹿市土地改良区連絡協議会、関係者 40名
報道関連	特になし
活動実績	9年
連絡先	〒010-0683 男鹿市北浦北浦字北浦82-5 男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区 TEL.0185-33-4069
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット一ノ目潟（夏井まゆ子）					
○活動の目標及び達成率	目標	湖岸周辺のクリーンナップを土地改良区が主体となり、地元住民とともに行う。			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンナップについては充分活動内容を達成していると感じる。地元住民の参加者が増えているが、今年度、地元の行事と重なってしまい、毎年参加していただいている老人会の参加がなかった。開催日も検討しながら地元住民の方々に参加しやすいよう努力したい。 				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	D	運動のPRに対しては今後、広報の方法について検討していきたい
①役職員・組合員の参加	A	役職員、組合員の積極的な協力がみられる	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	D	毎年地元小学校への参加要請をしているが、日程が調整できず、参加に至っていない	①他組織との連携構築	A	上水道を提供している男鹿市企業局と、綿密に連絡し計画を立てて実行している。男鹿市企業局からも、水質の保全に対する意見を求め、その実現に対して、協力を求めている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	水質の保全の重要性を伝えることができていると感じる
①基本理念の設定	A	水質の保全への取り組みとしての基本姿勢は確固としている	③施設管理・地域資源の保全強化	A	この運動が水質の保全とため池の維持管理を強化する運動であると感ずる
②地域の歴史等の伝承	A	この運動そのものが、ため池維持管理に努力した先人の遺志を継ぐものであると考えている	④運動の地域づくりへの関わり	A	例年継続して行うことで地域の協力が不可欠となっていることから、関わりが大きくなってきていると感じる
③運動の先駆性	E	他への手本となるような独自の運動ではない	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	農地・水・環境保全向上対策は当土地改良区の関係地域では行われていない
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	水質の保全に努めることが地域農業の進行に直接的に働きかけることではないが、農業経営をする上で、より良い水質で稲作することが将来的に作物の品質の向上につながればよいと思う
①運動の継続性	A	今年度で9回目の開催であり、今後も継続して行いたいと考えている	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	水質の保全のために必要な運動を毎年見直し、その年の一ノ目潟の状況に応じて活動内容を広げている	・継続して運動を行ったことで、水質保全への取り組みが、地域への理解を得つつある。今年度は外来魚駆除を行わなかったが、今後継続して行うことで水質の保全に努力をしていきたい。		
③運動の計画性	A	事前に取り組みについての打ち合わせを入念に行い、無駄のない活動計画を立て取り組んでいる			

（自己判定） A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑨ 八西地区 【水土里ネット八郎潟西部干拓地区】

農業水利施設見学会

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として弘戸小学校5年生を対象に施設見学会を実施した。

例年ならば農道で稲を見ながら説明するのだが、今年は小雨のためバスの中での説明となった。当土地改良区は干拓によって造成された田を管理していること、周辺から流れてくる生活排水や雨水の終末処理をしているため排水機場のポンプで八郎潟調整池に排水していることなどを説明した。

次に、揚水機場、排水機場を見学し実際に調整池に排水させる様子を見せた。子ども達は建物があることは知っていても、どういう働きをしているのか知らなかったため、改めて各施設の役割について理解したようだった。

その後、南部排水機場に移動し八郎潟干拓のことや排水機場のしくみをビデオで見てから、集中制御方式の操作室や巨大なポンプを見学した。特に5台あるポンプを全部合わせると1秒間で50m³を排水でき、これは学校のプールを6秒間で満杯に出来ると知り子ども達は驚きの声を上げていた。

今後も農業水利施設の重要性と土地改良区が行っている維持管理について理解してもらうために、この活動を継続していきたいと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット八郎潟西部干拓地区（八郎潟西部干拓地区土地改良区）
後援・連携	弘戸小学校、秋田地域振興局 八郎潟基幹施設管理事務所
実施期間	平成23年6月21日
参加者	弘戸小学校（生徒23名、教師1名）八郎潟基幹施設管理事務所（3名）土地改良区役職員（7名）
報道関連	特になし
活動実施年数	2年
連絡先	〒010-0431 男鹿市弘戸字浜1-6 八郎潟西部干拓地区土地改良区 TEL 0185-46-2174
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット八郎潟西部干拓（船木 友見）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設とそれを維持管理している土地改良区についての理解や関心を持ってもらう。			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	・小学校からは、好評を得ており今後もできる限り継続していきたい。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	D	運動のPRはしていない
①役職員・組合員の参加	B	役職員一体で取り組んでいる。組合員の参加も促したい	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	D	後継者を育てる工夫までではない	①他組織との連携構築	B	小学校と連携している
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	C	子供達を通して少しずつ深まってきた
①基本理念の設定	B	推進協議会で明確にしている	③施設管理・地域資源の保全強化	C	更に努力が必要
②地域の歴史等の伝承	C	干拓の歴史について理解されつつある	④運動の地域づくりへの関わり	C	少しずつ発展させていきたい
③運動の先駆性	C	工夫が必要である	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	農地・水・環境保全向上対策は、行われていない
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	D	地域農業の振興まで至っていない
①運動の継続性	B	学校側の協力を得ながら継続していきたい	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	大きな発展までは至っていない			
③運動の計画性	B	小学校と連絡を取り打合せを行った			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑩井川地区 【水土里ネット井川】

学習田農業体験活動及び収穫祭

今年も井川小学校5年生による学習田体験農業活動「田植え・稲刈り」が行われ、当土地改良区が21世紀創造運動の一環として参加してから7年目に入った。

当土地改良区管理の坂本堤に隣する学習田において、井川町農業委員より苗の植え方について説明された後、型枠で苗を植える目印を付け田植え作業に入った。最初は、泥に足がとられないよう慎重に苗を植えていたが、慣れるにしたがい方々から「苗くださ〜い」と元気な声が上がっていた。子供達の中には苗のキャッチに失敗したり、泥に足をとられ転んだりして全身泥だらけになっている姿も見られた。

稲刈りでは、前日の雨でぬかるんでいるところもあり、一部コンバインによる刈り取りも行われたが、子供達は慣れない手つきで黄金色に育った稲を刈り取りしていた。刈り取った稲は一束ずつ束ねられ、子供たちがコンバインまで運び脱穀までの作業を体験していた。

今回、毎年行われる収穫感謝祭には参加できなかったが、年間を通した体験農業活動の感想発表の後、保護者やお世話になった方々と「みそたんぼ」を作り収穫の喜びを味わったようだ。

今後も関係機関と連携を図りながら学習田体験農業活動に参加し、水土里ネットの役割や水利施設の重要性について啓発していきたいと思えます。



活動体制	
実施主体	井川小学校
後援・連携	井川町教育委員会 井川町農業委員会 水土里ネット井川
実施期間	田植え5月31日 稲刈り10月4日 収穫感謝祭12月13日
参加者	井川小学校（5年生、教職員、保護者）井川町（農業委員会、教育委員会）等 延べ210名
報道関連	湖畔時報社 井川広報誌
活動実施年数	7年
連絡先	〒018-1512 南秋田郡井川町北川尻字海老沢樋ノ口36-2 井川町土地改良区 TEL.018-874-2105
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット井川（小林 秀昭）					
○活動の目標及び達成率		目標	農業水利施設の役割と重要性		
		達成率	70%		
○活動に対する評価		<ul style="list-style-type: none"> 行政、教育機関との連携は順調であり定着している。 農業水利施設の役割を理解してもらうよう継続していく。 			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	多面的機能を看板やパンフでPR
①役職員・組合員の参加	C	役職員の意識は向上したが、組合員までは浸透していない	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	小学生を対象に活動	①他組織との連携構築	B	行政・教育機関と連携されているが他の組織との連携までにはいっていない
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	C	一部の活動地域には深まっており、今後、全体的な啓蒙が必要
①基本理念の設定	B	取り組みが定着してきている	③施設管理・地域資源の保全強化	C	施設見学等での現状把握が必要
②地域の歴史等の伝承	B	手作業により先人の苦勞を体験	④運動の地域づくりへの関わり	C	一部地域だけでなく広域的な関わりが必要
③運動の先駆性	C	今後、更なる発展が必要	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	農地・水は実施していない
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	D	地域農業の振興まで至っていない
①運動の継続性	A	継続してる	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	全体的な広がり薄い	<ul style="list-style-type: none"> 小学生を対象に活動しているが、今後は地域住民にも啓発普及活動を展開していければと思う。 		
③運動の計画性	B	計画的に実施されている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

大潟小学校出前授業・施設見学会

大潟小学校4年生を対象とした出前授業、施設見学会は平成20年度から始まり、平成23年度で4回目となる。土地改良施設の役割と多面的機能の啓発活動の一環として実施した。

- 出前授業 平成23年11月4日(金) 午前8時45分～午前9時45分
 - ・土地改良施設の役割、土地改良区の仕事等を説明（出前授業用資料）
 - ・東部承水路の取水口方式（サイフォン式）の模型を用いて説明
 説明後、生徒より想定もしない質問等もあったが有意義な出前授業となった。生徒のほとんどが当土地改良区の組合員の子息等であるが、実際には場等で農作業を手伝うまたは行ったことがないのが実情である。土地改良施設の役割についてより深く理解が得られるよう継続して行っていく。
- 施設見学会 平成23年11月9日(水) 午前8時45分～午前10時25分
 - ・F2用水取入機場
 - ・南部排水機場
 出前授業を踏まえ、土地改良施設の一部を実体験でより深く理解してもらう目的で実施しているが、生徒達は実際に見て実感で理解したようである。また、八郎潟基幹施設管理事務所のご協力により排水機場の重要性も含め農業水利施設及び土地改良区の仕事も少しは理解してくれたのではないかと。出前授業、施設見学を通じて生徒は勿論、父兄等の地域住民等に対しても理解が得られるよう継続し啓発活動を実施する。



活動体制	
実施主体	水土里ネット大潟（大潟土地改良区）
後援・連携	大潟小学校、大潟村教育委員会
実施期間	平成23年11月4日、11月9日
参加者	生徒37名、担当教師2名（出前授業）施設見学会（引率教師2名） 計39名
報道関連	特になし
活動実施年数	4年
連絡先	〒010-0443 南秋田郡大潟村字中央3番地9 大潟土地改良区 TEL 0185-45-2118
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット大潟（千田 博）

○活動の目標及び達成率	目標	大潟村における農業水利施設の重要性			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・4年生を対象に平成20年度から実施し4年目となり、土地改良施設の役割、重要性を出前授業、施設見学を通じてかなり理解が出来てきている。今後も新4年生を対象として施設の役割等の啓発活動について学校側へお願いする。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	C	大潟村案内ボランティアの会へ土地改良区概要パンフレットを提供し千拓博物館に見学された村外の方々へ土地改良区の役割を説明いただいている
①役職員・組合員の参加	B	役員は農業水利施設の多面的機能啓発活動を奨励している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	出前授業、施設見学会の啓発活動により土地改良区の役割を理解が深まっている	①他組織との連携構築	B	大潟村教育委員会、大潟小学校の啓発活動へは理解を得ている
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	A	純農村型の地区であり、ほとんどが土地改良区組合員であることから、その他住民も含めても理解度は高い
①基本理念の設定	A	農業水利施設の意義を伝えており、土地改良事業の理解度は高い	③施設管理・地域資源の保全強化	B	今後の国営事業も視野に地域の住民、組合員等へ事業についてアンケート調査等の啓発活動を実施している
②地域の歴史等の伝承	C	当地区は、周辺地域に比べ歴史も浅くまた人的にも絶対数がないので、年月を重ねて、その手となる人材の育成が必要な地区である	④運動の地域づくりへの関わり	A	当地区は行政（大潟村）と土地改良事業関連の補助等でつながりは深く、今後も情報交換等を行い土地改良事業のより一層理解を得られるよう努力する
③運動の先駆性	C	上記同様である	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	地域住民のほとんどが農家で組合員であり、農地・水関連の事業については理解している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	A	純農村型の地区であり、必然的に農業水利施設役割の理解度は高い
①運動の継続性	A	大潟村外の方々へもパンフレット等により土地改良施設の役割等の大潟村案内ボランティアの会より説明しており一定の啓発活動効果はある	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	国営造成施設管理体整備促進事業と連携し土地改良区の役割、土地改良施設の多面的機能の啓発活動の継続性により理解を得られつつある	・当地区は、幹線用水路、排水路横断管等の経年劣化により更新時期を迎えており、国営事業等の早期実施を国等の関係機関へ要望している		
③運動の計画性	C	大潟小学校4年生を対象にこれまで4年間実施しているが、関係町の小学生へも出前授業を行いたい、その町の土地改良区自体もお願いしても理解が得られず実施していないのが実情である			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

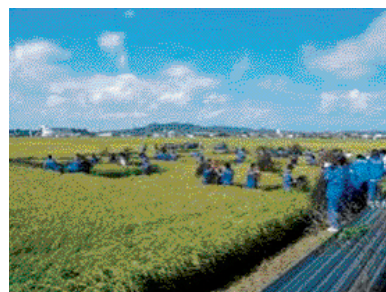
「古代米の梵天で高校受験全員合格」祈願

6月2日、今にも雨が落ちてきそうな空の下、東中3年生132名が古代米の苗を使い、田植え作業を行いました。

9月6日古代米部分だけの稲刈りです。去年は学校行事の関係で生徒会だけの稲刈りでしたが、今年は全員が参加し、刈り取り・手渡し・運搬と、作業分担をし効率よく作業が進みました。

今年の絵柄は「BEST」、この文字を刈り取った稲を使って梵天を寄贈しています。

梵天には高校受験合格・交通安全の願いが込められており、3年生は受検合格に向けBESTを尽くしてもらいたいです。



活動体制	
実施主体	本荘子吉環境保全活動組織
後援・連携	水土里ネット子吉（由利本荘市子吉土地改良区）
実施期間	平成23年5月～12月
参加者	本荘東中学校3年生他（138名）
報道関連	特になし
活動実施年数	9年
連絡先	〒015-0042 由利本荘市埋田字小館81-16 由利本荘市子吉土地改良区 TEL. 0184-22-0426
その他	県奨励賞（H17）、県知事賞（H21）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット子吉（渡辺 聡）

○活動の目標及び達成率	目標 東中3年生全員参加 達成率 100%				
○活動に対する評価	・3年生全員参加の目標が達成できた。今後も活動組織との連携を図り継続していきたい。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	C	年1回の広報で知らせる程度に終わっているので、積極性には欠ける。
①役職員・組合員の参加	B	全組合員までは周知がはかれないため積極的な参加までは出来ない。	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	運動に参加している生徒が、将来後継者になるかは定かでない。	①他組織との連携構築	B	環境保全組織、改良区とは連携が構築されているが、それ以上の発展はない。
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	C	水土里ネットの重要性については理解が薄いと思われる。
①基本理念の設定	A	東中の生徒会中心に活動に参加してもらい、農作業を通じ将来農業に関心を持ってもらいたい。	③施設管理・地域資源の保全強化	B	農地の保全にはつながっていると思われる。
②地域の歴史等の伝承	B	先人が苦労して農作業をしていたとは伝わっていると思われる。	④運動の地域づくりへの関わり	B	地域の関わりはあるが、大きくはない。
③運動の先駆性	B	他の団体から問い合わせがあれば、手本となることは可能と思われる。	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	環境保全組織は大きく貢献している。
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	地域農業の振興までは貢献出来ていない。
①運動の継続性	A	今後も継続的に活動できる。	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	授業の一貫として行っているこれ以上の発展は無理なのかと感じる。	・事業の継続は今後も可能であるが、地域住民への関心を広げる努力が必要と思われる。		
③運動の計画性	B	毎年生徒会が中心となって計画を立てているので、位置づけは出来ている。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農村環境向上対策による学校教育と連携した農業体験学習

今年度も農地・水環境保全活動組織で農村環境向上対策事業として、学校教育と連携した活動が実施されました。5月18日の田植え作業は、にかほ市立金浦小学校5年生と地区活動組織会員による現在は見られない伝統的田植え作業と農業・食料・農業水利について学び、最後に生徒から体験感想を述べてもらい秋の豊作を期待して終了した。

今年は、春先の低温・夏の暑さも心配されたが、作柄も順調に進み9月27日に田植えを行った生徒と地区会員が汗を流しながら稲刈り作業を実施し、収穫を喜びながら農業体験について感想を述べて農業体験学習を終了した。

特に感心したのが、年々生徒の皆さんが真剣に田植え・稲刈り作業を行い、生育期間を現地で調査実施したことです。今年度の事業効果として、活動も5年間実施して生徒の皆さんが一生懸命作業に当り、一年を通してどのようにして生育されているか生育調査の実施と水・土・圃場内の生き物にも興味を示してきたことと、地域会員が積極的に多数参加してくださっていることを評価しています。

今後も地区活動組織・水土里ネットにかほ・関係諸団体機関と連携しながら継続していきたいと思っており、1月に予定されている小学校での地域住民との「交流会」及び生徒による農業学習展を楽しみにしています。



活動体制	
実施主体	飛地区農地・水環境保全活動組織
後援・連携	水土里ネットにかほ・にかほ市立金浦小学校・JA秋田しんせい金浦支店・にかほ市
実施期間	平成23年5月18日～平成23年9月27日
参加者	田植え作業：生徒37名・組織会員20名 稲刈り作業：生徒37名・組織会員21名
報道関連	にかほ市企画広報係・秋田しんせ農協金浦支店広報係
活動実施年数	9年
連絡先	〒018-0301 にかほ市飛字飛ヶ崎54 組織代表 佐藤 正春 0184-38-3646
その他	県奨励賞（H19）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットにかほ（佐藤 正春）					
○活動の目標及び達成率	目標	農業体験学習を通じて農業・食料・農業施設等多面的機能の重要性			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	・5年目に入り充実してきている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	多様な運動はしていない。
①役職員・組合員の参加	A	組織体制は確立している。非農家へも浸透している。	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	組織内で後継者に参加呼びかけが必要である。	①他組織との連携構築	C	連携はしていない。
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	B	理解を得ている。
①基本理念の設定	A	基本的な意識をもって取り組んでいる。	③施設管理・地域資源の保全強化	B	体験学習で充実させてきた。
②地域の歴史等の伝承	A	伝統的農法を実践している。	④運動の地域づくりへの関わり	B	水土里ネットからは支援をいただいている。
③運動の先駆性	B	他の手本になるよう実践している。	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	組織で継続を確認している。
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	体験学習により地域農業への関心を示している。
①運動の継続性	A	継続性を重要視している。	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	参加者も増えている。	・農業体験学習の実施も重要であるが、生徒の皆さんからは、水路のかがい系統や水路・圃場内の生き物等について、当初の体験学習から見ると関心・質問が多く出されてきておりますので、可能であれば年2回（1回の実施では時間が足りない）程実施する計画を立てていきたい。		
③運動の計画性	A	年間計画を立てながら実践している。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農業体験学習（米づくり体験）

本地域では「農業体験学習」の一連の活動として地元小学生を対象に農業用水の水質調査、二級河川西目川の魚類生息調査、カントリーエレベーターの見学と親水公園の清掃、そして、米づくり体験を実施している。

米づくり体験は小学校5年生が主体となって播種、田植え、生育観察、稲刈り、自然乾燥の各工程を実体験を通じた学習活動をしている。

田植え、稲刈り、自然乾燥は昔ながらの手作業で小学生の他、幼稚園、一般関係者が一緒に活動をしており、体験学習田は西目小学校の近くの県道沿線に位置し、学習田はパイプラインかんがいで、農道は舗装されており、作業環境も良く楽しみながら作業を進めている。又、作業時には子供の保護者も多く集まり、作業にも参加している。

自分達の作業で収穫した貴重な自然乾燥米は学校での試食と、給食用に活用している他、西目出身の東京ふるさと会で試食用として利用している。

東京の試食会用に使用している袋には作業中の子供の写真を貼り、体験学習により収穫したふるの米であることを表示しており、好評で米の消費拡大の役割を果たしている。

又、この体験学習により農業に対する関心と環境に対する関心も深まってきているので今後も継続したい。



活動体制	
実施主体	西目環境保全活動の会
後援・連携	水土里ネット西目（西目土地改良区）、J A秋田しんせい西目支店、由利本荘市役所西目総合支所、稲作研究会、A S T農場、西目小学校、西目幼稚園
実施期間	平成23年4月11日（播種）、5月17日（田植え）、6月23日（稲の生育観察）、9月27日（稲刈り）
参加者	西目環境保全活動の会5名、水土里ネット西目3名、J A秋田しんせい4名、由利本荘市役所西目総合支所5名、稲作研究会1名、A S T農場2名、西目小学校職員5名、5年生49名、西目幼稚園職員3名、年長児57名
報道関連	特になし
活動実施年数	2年
連絡先	〒018-0604 由利本荘市西目町沼田字西潟356-3 西目土地改良区 TEL. 0184-33-4666
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西目（三浦 昭夫）					
○活動の目標及び達成率	目標	地域農業に対し関心を深める			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・現地での活動であり天候に左右されるため小学校の授業時間の調整等、難しい面もあるが、「農業が基幹産業である」ということに対する関心と環境保全にも関心が深まってきた。又、継続して実施することにより地域農業の発展に寄与できると思っている。 				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	市の広報を活用している
①役職員・組合員の参加	A	役職員、組合員以外にも非農家参加もある	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	この運動に理解があると思われるが参加が少ない	①他組織との連携構築	A	連携が強くなっている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	徐々に深まってきている
①基本理念の設定	A	農業への関心を深めることに主眼をおいて取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	つながりが出ている
②地域の歴史等の伝承	C	体験学習の部門毎において先人の思いを伝えている	④運動の地域づくりへの関わり	B	運動が地域から期待されている
③運動の先駆性	A	体験学習全体の取り組みとしてはあると思っている	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	大いに貢献している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	成果が徐々に浸透してきている
①運動の継続性	A	今後も継続して行く	5. 今後の課題等について ・この活動が体系的なカリキュラムにより、学習の一課程となれば更に効果がでけると思われる。		
②運動の発展・拡大	B	徐々に広がりが出ている			
③運動の計画性	A	年度当初に計画について学校側と話し合いをしている			

（自己判定） A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農業水利施設見学会

水土里ネットが管理している施設の役割と機能について、将来の地域農業の担い手である児童に啓発するため施設見学会を実施しました。

小学4年生による施設見学なので、農業水利施設の持つ役割等を理解することは難しいと思いますが、今まで見たことの無い施設等を見学することは、児童たちにとって貴重な体験になったと思います。

今後も農業水利施設等に関する認識の向上を図るため、施設見学等は必要と考えています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット仙北平野（秋田県仙北平野土地改良区）
後援・連携	大仙市立横堀小学校
実施期間	平成23年8月29日
参加者	横堀小学校4年生29名、教職員2名、秋田県仙北地域振興局農村整備第一課職員1名
報道関連	特になし
活動実施年数	7年
連絡先	〒014-0034 大仙市大曲住吉町2番6号 秋田県仙北平野土地改良区 TEL.0187-62-0180
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット仙北平野（星宮文雄）					
○活動の目標及び達成率		目標	土地改良施設に関する認識の向上と地域住民と連携した管理体制の推進		
		達成率	20%		
○活動に対する評価		・対象地域の広さに対して活動が少ない			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			3. 継続性・発展性について		
①役職員の理解度	C	段階的な推進	①継続した活動の展開	C	活動に関わる体制整備
②運動の取組体制	C	活動に関わる体制整備	②運動の着実な発展・展開	C	〃
③組合員の理解度	C	段階的な推進	③運動計画の設定	C	〃
④運動効果の発揮	C		④運動効果の発揮	C	〃
2. 活動の意味性について			4. 行政・地域住民との連携について		
①基本理念の設定	—	特に設定していない	①地域住民・教育機関との連携	C	活動に関わる体制整備
②地域住民への明確なPR	C	方法の検討が必要	②積極的な情報発信	C	〃
③持続可能な体制（経費を含む）	C	活動に関わる体制整備	5. 今後の課題等について		
④地域の歴史等の伝承	—	行っていない	・今後、対象地域を広げていきたい。		
⑤本来業務に関した新たな取組	C	段階的な推進			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

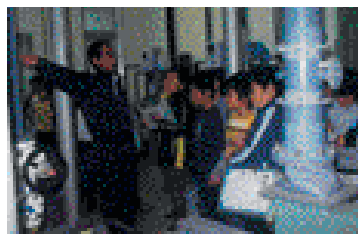
水の大切さと地域環境を学ぼう～施設見学会～

西明寺小学校4年生との施設見学会は、今回で5回目である。今年は宮田頭首工と、上水道浄水場、下水処理施設の西明寺クリーンセンターを見学した。

当日はあいにく雨となってしまったが、宮田頭首工では子供達は事前に予習してきた内容を質問したり、何度もメモをとっていた。最初に管理事務所の中から遠隔操作で水門のゲートを調節することを知り管理橋に上りその高さや長さ(100m)、水深(2m)雨のため水量の多さなどに一様に驚いたようであった。晴れていれば水が透明で川の中の魚が見える程だが、残念であった。また、流れてきたゴミが取水口に溜るので、引き上げた沢山のゴミの山に驚いた様であった。最後に自家発電機をみて、停電になっても大雨の場合、ゲートが自動で上がることを知った。

次に仙北市企業局の協力で浄水場を見学してもらい、地下水を浄化して各家庭に供給されること、3.11の大震災の時に、自家発電を稼働したお蔭で断水にならなかったことを教えてもらった。最後に仙北市下水道課の協力で下水処理場を見学してもらった。そこでは汚水を浄化するのにバクテリアが活躍していること、そのバクテリアは家庭から流される食用油などで死んでしまうこと等を知った。処理場で浄化された水は桧木内川に流れていく。どの施設でも、自分たちの生活に水はかけがえのないもので色々な人たちがその水を管理している、何気なくゴミを捨てたりして川を汚してはいけないことを知ってくれたと思う。また水土里ネットの役割もよく理解してくれたようである。

今年もまた子供達の感想文を“水土里の郷・西木「きらきら発見」”と題し文集にして、各家庭で読んで貰う様にした。仙北市広報でも大きく取り上げて掲載してくれたので、この見学会が市内全域で知られるようになったと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット西木(仙北市西木土地改良区)
後援・連携	西明寺小学校、仙北市役所
実施期間	平成23年10月17日
参加者	西明寺小学校4年生(24名)先生(2名)仙北市(5名)水土里ネット西木(8名)
報道関連	広報SENBOKUせんぼく
活動実施年数	5年
連絡先	〒014-0515 仙北市西木町門屋字漆原87 仙北市西木土地改良区 TEL.0187-47-2602
その他	さなえ賞(H21)

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西木(伊藤 長三)					
○活動の目標及び達成率	目標	小学生を対象に水土里ネットの役割と「水と環境の大切さ」を考えてもらい、各家庭で話題にしてもらう			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・今年も西明寺小学校と仙北市役所の協力で施設見学会は5回を数えるようになった毎年子供達の真剣な目や質問に関心の高さを感ずる。この子供達が大人になってもこの施設見学会で感じた「水と環境の大切さ」を忘れないことと思う。				
判定基準	自己判定(達成度)		判定基準	自己判定(達成度)	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	広報SENBOKUに掲載される
①役職員・組合員の参加	C	役職員一体で取り組んでいる	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	D	後継者を育てる工夫までは行っていない	①他組織との連携構築	A	小学校との取り組みに市役所の協力を得ている。また広報掲載により周知されることとなった。
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	子供達を通じて改良区の重要性を家庭に伝え、広報に大きく取り上げられて地域全般に知られるようになった。
①基本理念の設定	A	施設見学会で水と環境の大切さを子供達が感じ、子供達から各家庭や地域に伝えてもらう	③施設管理・地域資源の保全強化	C	改良区の管理施設を仙北市の多くの人々に知ってもらい、日々の管理について理解してもらうことが出来る
②地域の歴史等の伝承	A	昔頻りに起きた洪水を鎮めるため、人柱になったとされる宮田頭首工の「お小夜伝説」を子供達が知った	④運動の地域づくりへの関わり	D	今後の課題である
③運動の先駆性	D	自分たちが出来る範囲の活動なので、ユニークさや先駆性はない	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	C	事務用品の調達に協力したり、図面を提供している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	D	事務用品の調達に協力したり、図面を提供している
①運動の継続性	A	今年で5年目ですがこれからも続けていく予定である	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	改良区の施設見学会に浄水場、下水処理場など市の施設も組み入れている	・小山寺頭首工見学や、親子見学会も行ってみた。		
③運動の計画性	B	子供達を通じて改良区の重要性を、家庭や地域でも認識してもらう			

(自己判定) A: 大いに達成している B: 達成している C: 少しは達成している D: 達成していない E: その他

地域の用水を支える「緑のダム」

管内の六郷小学校5年生（65名）を対象とし、土地改良施設巡りと生き物調査を実施しました。

6月にブナ林と土地改良施設の見学会を実施し、ブナ林では、森林の多面的機能や樹幹流を説明をしました。

施設見学では、仏沢ため池を見学後、関田頭首工の管理橋に登り、取水ゲートから導水路へ取水する仕組みを見学しました。最後に関田円型分水工ではブナ林とため池の水を肌で感じてもらいました。

9月は湯田沢川で生き物調査を実施しました。始めに、川に棲んでいる生き物の捕獲体験を行いました。捕獲後、観察水槽に生き物を移して図鑑で調査しました。きれいな水に生息している生き物がたくさん見つかりました。また、ブラックバスの稚魚も見つかり、湯田沢川の生態系が心配されました。

今後も小学校と連携してこの活動を継続し、「緑のダム」の大切さと土地改良区の役割の理解を広めていきたいと思っています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット七滝（秋田県七滝土地改良区）
後援・連携	美郷町、美郷町教育委員会、秋田県仙北地域振興局
実施期間	平成23年6月～11月まで
参加者	H23.6.10 美郷町立六郷小学校5年生65名、教諭3名 H23.9.9 美郷町立六郷小学校5年生65名、教諭3名 延べ136名
報道関連	秋田県HP、美郷町HP、水土里ネット七滝HP
活動実施年数	4年
連絡先	〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字米町29 秋田県七滝土地改良区 TEL.0187-84-2137
その他	さなえ賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット七滝（藤岡 義博）

○活動の目標及び達成率	目標	小学児童を対象とした学習会の実施。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・小学校の総合的学習と連携し、出前授業を行うことが出来た。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	A	改良区HPや広報等でPRを行った
①役職員・組合員の参加	A	役職員が一体となり運動に取り組んだ	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	小学校に出前授業を推進した	①他組織との連携構築	B	県・町の協力で運動が周知された
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	農業用施設の利用が増した。
①基本理念の設定	B	森と水の大切さの理解を深めよう	③施設管理・地域資源の保全強化	B	土地改良区の役割を知ってもらう機会になった
②地域の歴史等の伝承	B	学校の授業にも取り入れられてきた	④運動の地域づくりへの関わり	A	子供を通じて土地改良区の役割を地域にも理解してもらう機会になった
③運動の先駆性	A	運動が定着している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	啓発用品の調達や写真撮影等を協力している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	人材育成だけでなく農業生産等にも貢献したい
①運動の継続性	A	小学校の総合的学習時間と連携し毎年運動を行っている	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	子供を通じて地域にも運動が知られた	・次代を担う子供たちに緑と水の大切の理解を深めてもらう学習会を行いたい。		
③運動の計画性	A	事前準備・打合せをしっかりと行った			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

思い出の1ページに～農業体験学習～

今年度は新たな運動エリアとして朝倉小学校にご協力を願い、全校児童444名の参加のもと①学校敷地内への花の植栽（マリーゴールド、ペコニア）②学年毎の作物の植付け／1年生（さつまいも）／2年生（中玉トマト、枝豆）／3年生（ピーマン、大豆、キャベツ）／4年生（枝豆、ヘチマ）／5年生（とうもろこし、大豆）／③地域の子供会による田植え作業④特別支援学級との農業体験などに取り組みました。

特に今年は特別支援学級の児童と作物の育て方や物の大切さを一緒に学習することができ、「第134回秋田県種苗交換会」に出展するネギづくりにも力を入れました。ネギの植付けから管理、畝あげ、収穫までの一連の作業に取り組み、今まで体験したことのない学習の場を提供することが出来ました。また前年度に引き続き仙南西小学校4年児童施設体験学習会にも取り組みました。今年は8月31日に開催し、横手川の源流を視察しそこからあいののダム、新上堰頭首工を視察してもらいました。又、各施設で採水してきたものを水質調査し、上流の方がどれだけ水がきれいであるかつ、おいしいお米が出来るかを説明しました。最後に横手川漁業協同組合の協力を得て投網をやってもらいアユ、鯉、フナ、ナマズなどを取って地元でこれだけの魚が生息していることも体験していただきました。

記念撮影した写真を下敷きにして仙南西小学校の全校生徒に配布して、大変喜ばれており、今後も継続したいと考えております。



活動体制	
実施主体	水土里ネット南旭川（秋田県南旭川水系土地改良区）
後援・連携	横手地区資源保全隊
実施期間	平成23年6月～平成23年10月、平成23年8月31日
参加者	横手市立朝倉小学校児童 444名 教職員 46名 計490名 美郷町立仙南西小学校児童・引率先生同他 計24名
報道関連	広報南旭川水系第22号
活動実施年数	5年
連絡先	〒013-0060 横手市条里1丁目1-70 秋田県南旭川水系土地改良区 TEL.0182-33-7200
その他	さなえ賞（H19）、県奨励賞（H19）、県知事賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット南旭川（照井 元）

○活動の目標及び達成率	目標 秋田県種苗交換会に出展する。 達成率 100%
○活動に対する評価	・学校教育の一環として、野菜作りを通じ物作りの大切や大変さを学べることができたと思う。

判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	A	広報、看板を通じ取り組んでいる。
①役職員・組合員の参加	A	地域の皆さんにもっと参画していただく。	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	横手地区資源保全隊合同で取り組んでいる。	①他組織との連携構築	B	年々連携を密にしている。
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	回数を重ねる毎に小学校や地域住民に理解をいただいている。
①基本理念の設定	A	将来を担う児童の育成に努めた。	③施設管理・地域資源の保全強化	B	郷土の大切さや地域保全の理解につながった。
②地域の歴史等の伝承	A	学校の恒例行事に取入れた。	④運動の地域づくりへの関わり	A	年々関わりは大きくなっている。
③運動の先駆性	B	色々な体験を通じ子供達の反応から吸収することが多くあった。	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	資源保全隊と連携を取り事業に取り組んでいる。
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	
①運動の継続性	B	学校農園は継続的に取り組める。	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	運動の広がりにもかかわらず、今回は少人数をターゲットに取り組んだ。	・今迄以上に子供達の心に残る、地域一体型の運動を展開していきたい。		
③運動の計画性	A	小学校、資源保全隊と年度計画の立案している。			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

皆瀬1号幹線用水路(緑化活動)～商店街にオアシスを～

横手市十文字町の商店街沿いを流れる皆瀬1号幹線用水路の水路敷地を活用し、花いっぱいのおアシスを造ろうと幅2.4m・長さ228mにわたり6種類の花3,000株を植える活動が行われました。

この活動は、国営事業により開水路から暗渠水路に改修されたものの、少し寂しげな商店街を花で明るくしようと「十文字歩道の環境美化を考える会」が主催となり、関係機関や近隣の商店・地域住民の方々から参加協力を得て今年で3年目を迎えます。

当日は天候に恵まれすぎたのか、参加者は額の汗を拭きながらの植栽となりましたが、時折「がんばって下さい!」「何の花を植えてるんですか?」と声をかけられるなど、総勢76人により約3時間かけ一株一株丁寧に植え付けが行われ、見事な回廊が完成しました。

今回植えられた花は、道行く人がふと足を止め、立ち止まるほどの見事な花を咲かせ、雪が降る直前まで商店街を彩ってくれました。

この活動を通し、景観・環境はもとより、施設が街と融合し、地域活性化に一躍を担う存在であることを実感させられました。



活動体制	
実施主体	十文字歩道の環境美化を考える会・水土里ネット雄物川筋(秋田県雄物川筋土地改良区)
後援・連携	東北農政局平鹿平野農業水利事業所・秋田県平鹿地域振興局農村整備課・横手市
実施期間	平成23年6月28日
参加者	十文字歩道の環境美化を考える会会員・近隣住民等 計76名
報道関連	特になし
活動実施年数	10年
連絡先	〒013-0102 横手市平鹿町醍醐字浅舞山13-74 秋田県雄物川筋土地改良区 TEL.0182-32-2244
その他	県特別賞(H22)

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット雄物川筋(吉田 一則)

○活動の目標及び達成率	目標 花いっぱいの商店街	達成率 90%			
○活動に対する評価	・施設の持つ多面的機能をフルに発揮した活動				
判定基準	自己判定(達成度)		判定基準	自己判定(達成度)	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	施設にPR看板を設置し啓発を行っている
①役職員・組合員の参加	C	今後、役員や組合員に対し参加を呼びかけ活動の輪を広げたい	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	若手職員を主体とした立案・計画・実践活動を行っている	①他組織との連携構築	A	年々、各種団体・組織等からの参加者が増加傾向にある
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	C	PR看板の設置を行っているが、地域住民に施設の持つ役割・重要性についてあまり理解を得ていないと感じる
①基本理念の設定	A	多面的機能を持つ施設を活用し、商店街を花で彩り地域活性化を図っている	③施設管理・地域資源の保全強化	A	植栽活動を通し施設へのゴミの投棄が無くなっている
②地域の歴史等の伝承	E	緑化活動なので該当しない	④運動の地域づくりへの関わり	C	今後このような活動を他地区でも展開して行く必要がある
③運動の先駆性	B	施設への花の植栽を通し、活気ある町づくりに貢献している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	農地、水は行なわれていない
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	E	地域農業の振興に直接結び付かない
①運動の継続性	A	今後も継続して活動が行える人との繋がり等の下地が整っている	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	町内各種団体・組織への参加呼びかけを行っている	・農業水利施設としての認知度が低く感じられるため、PR看板等を設置し啓発活動を行う必要があると感じる。今後も継続的な活動を行うため、アドプト協定等を視野に入れた準備が必要。		
③運動の計画性	B	施設を有効活用し花いっぱいの商店街をテーマに活動を行っている			

(自己判定) A: 大いに達成している B: 達成している C: 少しは達成している D: 達成していない E: その他

地域住民一体となった維持管理コンテスト

水土里ネット山田五ヶ村管内で展開されている、農地・水・環境保全向上対策の20活動組織が実施している基礎活動、農村環境向上活動の取り組みについて、毎年度維持管理コンテストと共催で21世紀土地改良区創造運動を実施しています。

各活動組織の代表（代理出席も可）が各地区の実施状況を巡回し、項目別に採点しながら実施内容の説明を行いました。各活動組織において、それぞれ工夫した取り組みが見られ、連帯意識の高揚や情報交換の場としてなくてはならないものとなっています。

本年度は、基幹水利施設である山田頭首工及び山田幹線水路等の現地見学会を活動の中に取り入れ、農業用水利施設の重要性や水土里ネットが行っている維持管理活動のPRにも努めました。農地・水・環境保全向上対策を通じて大きな効果が生まれつつある地域住民との交流活動（農家・非農家を巻き込んだ維持管理活動他）で更新期を迎える土地改良施設の長寿命化対策の啓蒙にも努めました。

維持管理コンテストは本年で25回を数え、水土里ネットの21世紀土地改良区創造運動の中核を担う活動となっております。今後とも創意工夫に努めながら、水土里ネットの大切な役割を地域住民に伝えていきたいと考えております。



活動体制	
実施主体	水土里ネット山田五ヶ村（雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区）
後援・連携	農地・水・環境保全向上対策活動組織、維持管理委員会、維持管理ブロック委員会
実施期間	平成23年9月12日（月）
参加者	水土里ネット山田五ヶ村役職員、農地・水・環境保全向上対策活動組織役員他39名
報道関連	秋田県雄勝地域振興局農林部農林整備課
活動実施年数	10年
連絡先	〒012-0055 湯沢市山田字中屋敷139番地 雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区 TEL.0183-73-0438
その他	県奨励賞（H18）、東北地方大賞（H19）、21創造運動大賞（H19）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット山田五ヶ村（倉田 一治）					
○活動の目標及び達成率	目標	農地・水・環境保全向上対策との連携			
	達成率	98%			
○活動に対する評価	・更新期を迎える土地改良施設の長寿命化対策のため、地域住民の手によるみんなの維持管理活動を心掛けている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	県のホームページ、水土里ネット広報誌等を活用
①役職員・組合員の参加	A	積極的に参加している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	小学校の子供達に対する出前講座を推進	①他組織との連携構築	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	運動の継続により土地改良施設の多面的機能について理解が深まっている
①基本理念の設定	A	地域住民参加型の維持管理体制の確立	③施設管理・地域資源の保全強化	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携により、施設の管理・保全が強化されている
②地域の歴史等の伝承	A	地域の偉人について出前講座を実施	④運動の地域づくりへの関わり	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携により、地域づくりの関わりが大きくなっている
③運動の先駆性	A	24年前から維持管理コンテストを実施	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	全ての活動組織からの事務受託を受け、積極的に活動を推進している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	A	水土里ネットとして水田農業推進協議会、農業者大会、担い手育成推進協議会、耕作放棄地対策協議会の参画団体として意見提言を行っている
①運動の継続性	A	24年前から毎年維持管理コンテストを実施している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携	・水土里ネット管内だけでなく、広く地域住民に対する意識啓発のための情報発信の強化（現時点では、少し情報発信力が不足している）		
③運動の計画性	A	地域住民参加型の維持管理体制を確立する目標を掲げている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

21 横堀地区 【水土里ネット湯沢中央】

水土里の出前授業（役内川の水を調べよう）

当水土里ネットでは「農業農村と農業施設の多面的機能」、「先人の偉業」、「施設巡り」、「生き物調査」、「水を調べよう」など農業農村や環境の大切さについて理解を深めるような授業を、次代を担う子どもたちに「水土里の出前授業」として市内の小学校で開催しています。水土里ネット職員が主体となり、田んぼや農業水利施設の果たす役割などについて、質問形式を混ぜ、パソコンを使ったり、現地見学など飽きのこない学習内容を工夫しています。

雄勝地区の授業では、「役内川に関すること」として川の水の成分を調べて、その水が地域にどのような水の配分をしてみんなの田んぼに流れているか、そして学校付近ではどのような成分に変わってきているのかなど、現地の施設を廻り、その場で質問を受けながら、水の大切さを感じてもらっています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット湯沢中央（湯沢市中央土地改良区）
後援・連携	秋田県雄勝地域振興局農村整備課、湯沢市
実施期間	11月16日
参加者	横堀小学校3年生18名（生徒先生 16名）
報道関連	特になし
活動実施年数	10年
連絡先	〒012-0862 湯沢市関口字道地26 湯沢市中央土地改良区 TEL.0183-78-0670
その他	東北地方大賞奨励賞（H17・18）、県奨励賞（H17・18）、県知事賞（H20）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット湯沢中央（最上 保男）

○活動の目標及び達成率	目標	川・水が地域資源として大切で、それらが持つ多面的機能を再発見し関心を高めてもらう。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・人々に大切に護られてきた自然資産(川・水)やふるさとに対する思い等、さらに地域への関心が高まった。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	活動後にHPに記載
①役職員・組合員の参加	A	積極的に参加している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	小学校との連携体制が整っている	①他組織との連携構築	B	農地・水保全管理活動組織との連携
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	A	子供達から親や祖父母に伝わっている
①基本理念の設定	A	小学校の授業の一部として取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	農地・水保全管理活動組織との連携により強化されている
②地域の歴史等の伝承	A	水路の役割等勉強している	④運動の地域づくりへの関わり	A	農地・水保全管理活動組織との連携により関わりが大きくなっている
③運動の先駆性	B	今後の検討課題	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	農地・水保全管理活動組織との連携により効果は大きい
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	将来の担い手育成の一助となっている
①運動の継続性	A	数年継続している	5. 今後の課題等について ・小さな運動でいいので、身の丈あった無理のない運動を継続できれば。		
②運動の発展・拡大	B	4年生を対象としており、今後の検討課題としては農地・水保全管理活動組織との連携			
③運動の計画性	A	毎年度行っている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

どろんこ学校10～稲作文化の伝承～

「どろんこ学校」と名付け取り組んできた21創造運動も10年目になり、管内4小学校の5年生が総合学習の一環として米作り体験をした。

特に湯沢市立駒形小学校においては、春の代掻きから稲刈、脱穀まで体験した。

1月には農村と稲作の文化を伝えるため、地域の有志、資源保全会、水土里ネット稲川の役員が協力し、5年生児童の手で収穫した稲ワラを使っての「縄ない」を4年生から6年生児童が体験した。また下旬には6年生が納豆作りを体験した。

同じメンバーの指導の元、2月には小正月に併せ、全校生徒が参加し「雪中田植」も行う予定です。この会場には子供たちが編んだ縄を使ったしめ縄が一面に張られ、農村の伝統文化を再現し、伝承に務めその役割を子供たちにしっかり語り継いでいきたいと思っている。

また、今年で8回目になる「ゴミ捨て標語コンクール」には今回から皆瀬中学校も参加していただき、管内の5小学校、2中学校の児童、生徒から小学生の部428点、中学生の部344点合計772点の応募があった。優秀な作品を看板にして掲示し、ゴミ捨て防止への啓発普及に努めている。「どろんこ学校」と言うネーミングの原点である魚のつかみどり体験を9月に3年ぶり第4回目を実施した。水源の森百選に選定されている「大滝沢国有林」内にある東福寺ため池において施設の果たす役割や、農業用水の源流についての学習会を行ったあと、ため池の水を放流し下流で待ち構える子供たちはどろんこになってフナ、イワナ、ヤマメなどのつかみどりを楽しんだ「どろんこ学校10」であった。(今回は昨年の全国土地改良大会で21創造運動大賞を受賞した際の選考委員3名が現地視察に見えられ、子供たちと一緒に魚のつかみどりを体験していただきました。)



活動体制	
実施主体	水土里ネット稲川（稲川土地改良区）
後援・連携	管内小・中学校、秋田県雄勝地域振興局農村整備課、雄勝農業共済、JAこまち、皆瀬川筋漁業協同組合
実施期間	H23.5.27～H24.1.24
参加者	管内5小学校児童、管内2中学校生徒、父兄など延べ 633名
報道関連	秋田魁新聞、NHK、水土里ネット稲川HP
活動実施年数	10年
連絡先	〒012-0105 秋田県湯沢市川連町字上平城120番地 稲川土地改良区 TEL.0183-42-2116
その他	東北地方大賞奨励賞（H16・21）、県奨励賞（H16）、県知事賞（H18）、県奨励賞（H18）、東北地方大賞（H22）、21創造運動大賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット稲川（加藤 満）					
○活動の目標及び達成率	目標	「農業体験を通じて子供たちの豊かな心を育む」ため、学校と連携し各種学習会を実施			
	達成率	80%			
○活動に対する評価		・資源保全会等の関係者が参加することにより、学校と地域の関係も深まり、テレビ・新聞等マスコミ等でも多く取り上げ地域への浸透が図られた。			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	A	マスコミ（3社）外3機関へ発信、本区HPでPRが行われた。
①役職員・組合員の参加	A	役員が田んぼの提供、稲作指導に積極的に参加している。	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	資源保全会等の役員、構成員に理解を呼びかけている。	①他組織との連携構築	A	地域・学校・各種団体との連携が定着してきた。
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	子供たちを通じて父兄や地域住民の関心が高まっている。
①基本理念の設定	B	各種団体や学校との協調を図りながら進められている。	③施設管理・地域資源の保全強化	B	資源保全会との多様な関わりが、強化に繋がってきている。
②地域の歴史等の伝承	B	子供たちの授業に先人の功績について取り入れられてきた。	④運動の地域づくりへの関わり	A	学校だより等の発信が、世代を超えた関わりに繋がっている。
③運動の先駆性	B	「ゴミ捨て防止標語コンクール」などでエコ発信している。	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	資源保全会と運動を連携させた効果は大きくなっている。
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	運動と各組織が共同できる部分があり、間接的であるが貢献している。
①運動の継続性	A	学校からの要請もあり、これからも継続していきたい。	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	地域への広がり浸透は見られ、定着している。	・地域資源保全会を中心にして水土里ネットの連携を進め		
③運動の計画性	B	年間事業として行われてきている。	地域づくりに務めたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

水土里の体験～稲作体験を通しての学校交流～

中学校で同じ学校区になる町内2小学校の5年生全員を対象に、休耕田を活用し稲作体験を通して農業の大切さを学ぶと共に学校交流を深めることを目的に「田んぼの学校2011」を行った。

内容として、8アール程の水田に田植え作業と稲刈り作業の体験学習を行い、時間的な制約のある中で、子供達は体験学習を通して独自に稲の観察を行うなど意欲的に活動している。また、収穫したお米については、各学校とも福祉活動等に活用されており地域住民の方々より好評を得ている。

町内1小学校では、JAこまち農協青年部が主体となり近代的な農法（無人ヘリ防除等）の導入と食育及び地元保全会による生き物調査等を行うなど、5年生の子供達に好評を得ている。また、収穫感謝祭に保護者の方々も参加し、各農業団体の活動を理解してもらえた会であった。

「食料・環境・ふるさとを考える女性の会」と題して開催され、管内の女性の方々を対象に、農業水利施設見学と農地・水・環境向上対策の活動報告及び今後の農業政策を通して意見交換を行った。この中で、水土里ネットの役割を理解して頂くと共に「再認識した」との感想等があったほか、「今後も継続して地域住民に対し広く水土里ネットの役割をPRする必要がある」との意見が出るなど、今後の活動に参考になる会であった。



活動体制	
実施主体	水土里ネットうご（羽後町土地改良区）
後援・連携	町内3小学校、秋田県雄勝地域振興局農林部、羽後町、JAこまち、雄勝共済
実施期間	6月2日～11月22日
参加者	町内3小学校5年生、組合員（非農家も含む）家庭の女性など271名
報道関連	秋田県のHP（美の国秋田）、JAこまち広報、雄勝共済広報等
活動実施年数	9年
連絡先	〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字中野177番地 羽後町土地改良区 TEL.0183-62-0741
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットうご（藤原 周悦）					
○活動の目標及び達成率	目標	出前授業6小学校・ふるさとを考える女性の会の実施			
	達成率	50%			
○活動に対する評価	農作業体験を通して、食に関する関心度が高くなった。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	広報及び各農業団体と連携し、運動のPRを行っている
①役職員・組合員の参加	B	積極的に取り組む事で、活動を理解して頂いている	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	“田んぼの学校”で農作業体験等を行っている程度である	①他組織との連携構築	B	各農業団体等とも連携がとれており、一定の成果を得ている
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	B	農地・水・環境保全の活動を通して、特に理解を得ている
①基本理念の設定	B	事業計画に明確に織り込んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	上記と同様である
②地域の歴史等の伝承	C	先人達の想いを伝えているが、子供達の反応が鈍い	④運動の地域づくりへの関わり	C	農地・水・環境保全の活動を通して、従来よりも関わりが多くなっている
③運動の先駆性	B	女性の会での意見を、当水土里ネットの運営に反映している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	農地・水・環境保全の活動を通して、地域より評価を得ている
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	運動の内容を通して、地域の農業振興に貢献度は薄い
①運動の継続性	B	事業計画に織り込んでおり継続的に運動を展開している	5. 今後の課題等について ・創造運動の活動を通して、地域の方々に当水土里ネットに対する認知度が徐々に向上しました。今後の取り組みとして、身の丈にあった活動内容とし地域主導型で継続的に運動を展開していきたい。		
②運動の発展・拡大	B	先人達の想いを伝えているが、子供達の反応が鈍い			
③運動の計画性	B	学校関係とも連携をとっており、計画を持って実施している			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他



＜ 21 創造運動 ＞

参 考 資 料

1. 平成23年度21創造運動表彰 受賞一覧
2. 愛称「水土里ネット」の普及状況

1.平成23年度21創造運動表彰受賞一覧

(1) 秋田県21世紀土地改良区創造運動表彰

管内	水土里ネット名	受賞名	適用	備考
由利	水土里ネットにかほ	県知事賞		
秋田	水土里ネット一ノ目潟	奨励賞		

(2) 21世紀土地改良区創造運動東北地方大賞

都道府県	水土里ネット名	受賞名	中央選考委員会 推薦地区	備考
青森県	水土里ネット青森北部 水土里ネット青森第二北部	奨励賞		
宮城県	水土里ネットわたり	大賞	○	
秋田県	水土里ネット南旭川	奨励賞		
山形県	水土里ネット三郷堰	大賞	○	

(3) 21世紀土地改良区創造運動大賞

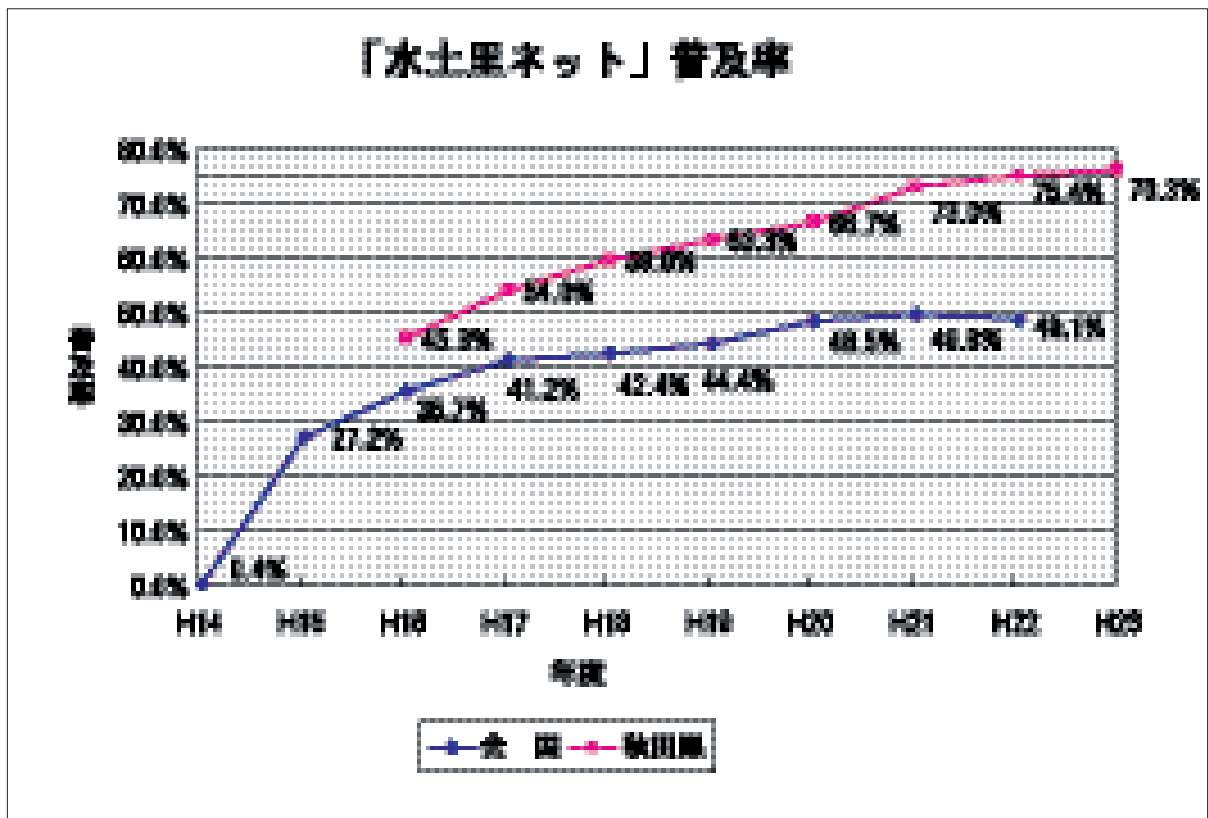
都道府県	受賞地区	所在地	副題	備考
北海道	水土里ネット由仁	由仁町	地域協働プランナー	
山形県	水土里ネット三郷堰	天童市	地域交流クリエイター	
新潟県	水土里ネット吉川	上越市	広域連携ネットワーク	
福井県	水土里ネット足羽川堰堤連合	福井市	環境創造エキスパート	2回目
岐阜県	水土里ネット萩原町川西北部	下呂市	水辺環境プロデューサー	
大阪府	水土里ネット鉢ヶ峰	堺市	農都交流フロンティア	
兵庫県	水土里ネット五斗長	淡路市	地域交流フロンティア	
福岡県	水土里ネット山田堰	朝倉市	歴史伝承チャレンジャー	
沖縄県	水土里ネット宮古	宮古島市	地域創造フロンティア	
(特別賞)				
宮城県	水土里ネットわたり	亘理町		

(4) 21世紀土地改良区創造運動「さなえ賞」

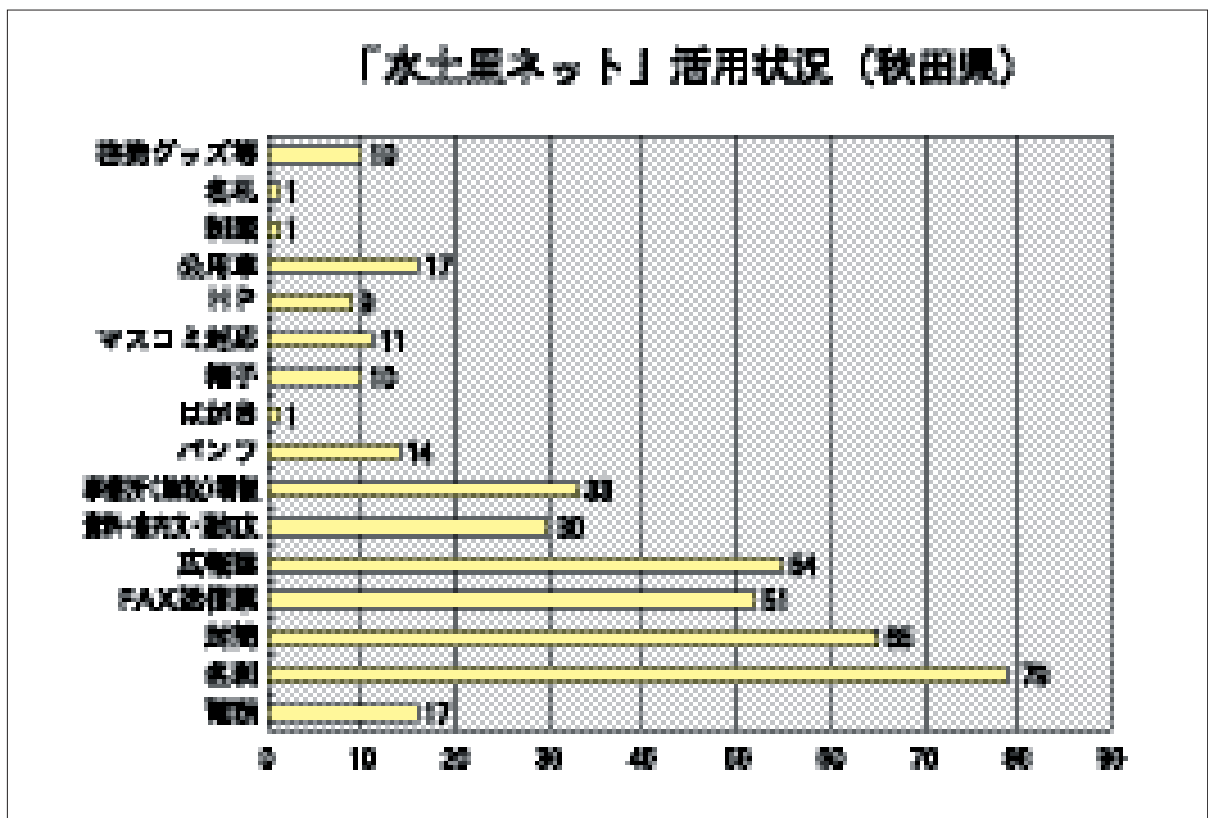
都道府県	受賞地区	所在地	備考
秋田県	水土里ネット西目	由利本荘市	
富山県	水土里ネット上条用水	富山市	
熊本県	水土里ネット宇土八水	宇土市	
鹿児島県	水土里ネット曾於南部	大崎町	

2.愛称「水土里ネット」の普及状況

愛称「水土里ネット」の普及率推移

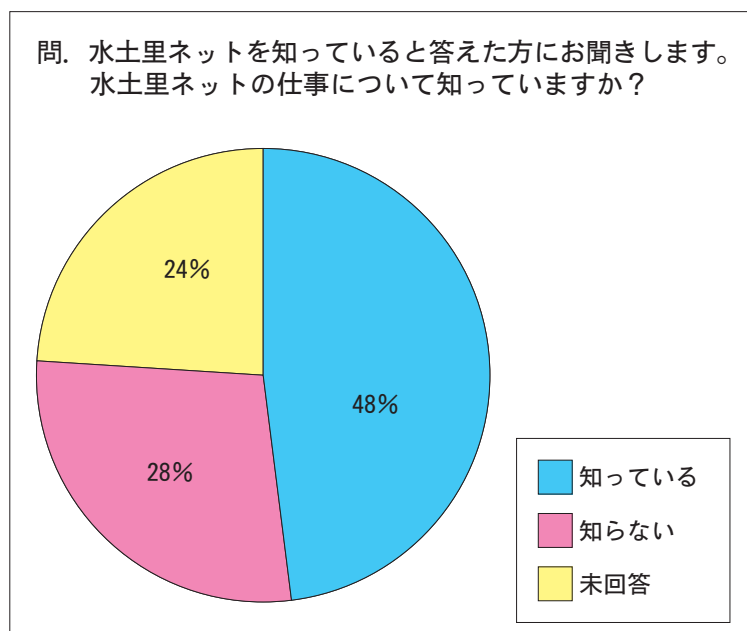
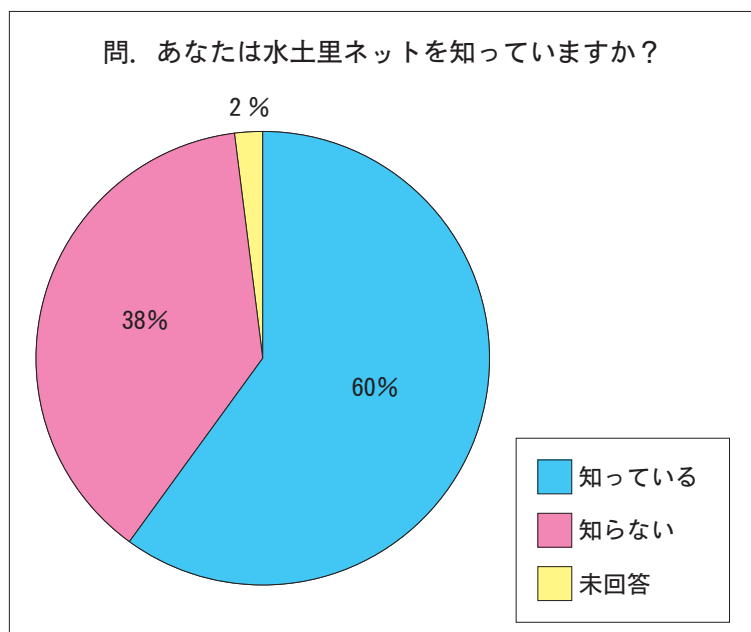


県内水土里ネットの愛称活用状況（平成23年度）



「農業農村整備フェア」アンケート

（アンケート回答 1,343）





水土里ネットとは？

水土里ネットは、全国に約5,000ある農家で組織する「土壌改良区」の愛称です。水土里ネットは、田んぼや畑を一つにまとめたり、大きく広げて養えたり、用水路を始めとする農業水利施設の管理を行っています。

また、農業用水の大切さを知ってもらうため、地域の人たちと一緒に、農業水利施設の見学や田植え体験などを行う「21世紀土壌改良区農業体験」に取り組んでいます。



成沢の小学生による「米源の自然学習」と「豊中田植え行事」(水土里ネット福川・湯沢町)



みどり
水土里ネット

農村環境を保全する

〔発行〕

水土里ネット秋田

(秋田県土地改良事業団体連合会)

〒010-0967 秋田市真室町3-37

TEL.018-888-2750(代表)

<http://homepage2.nifty.com/skidaren/>